

【補足資料】大宮工業・浦和工業新校準備委員会（第1回） 議事詳細

- 1 日 時 令和5年1月19日（木） 午後3時開会
午後4時45分終了
- 2 会 場 県立大宮工業高等学校大会議室
- 3 出席委員 岡部委員長、清水副委員長、堀口副委員長、大砂委員、岩崎委員、渡辺委員、鈴木委員、魚住委員、野澤委員、水島委員、金子委員、佐藤委員
- 4 事務局 魅力ある高校づくり課 栗藤、中島、坂本、高辻、橋本
- 5 協議等 「大宮工業・浦和工業新校基本計画検討（案）」について
岡部委員長 次第3、協議に移ります。まず、事務局から本委員会についての説明をお願いします。
事務局 （新校準備委員会について、今後のスケジュールについて説明）
岡部委員長 ただ今、事務局から新校準備委員会、それから今後のスケジュールについて、参考資料及び資料1に基づいて説明がありました。特に、新校基本計画検討委員会から、基本計画検討（案）等について提案があったものについて、御意見を頂戴する委員会であるということ、そして、本日につきましては、お手元の資料にありますように、4の基本理念、5の教育活動等の基本方針、6の教育活動等の基本方針の具現化について御意見をいただきたいという説明がありました。また、スケジュールの方では、今年12月を目途に基本計画を策定するという話と、校名については令和6年度からという説明がありました。ただ今、事務局から説明があった内容について、何か御質問等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは次に、既に令和4年10月に策定、公表いたしました、魅力ある県立高校づくり第2期実施方策について、事務局から説明をお願いします。
事務局 （魅力ある県立高校づくり第2期実施方策について説明）
岡部委員長 ただ今、事務局から、資料2に基づきまして説明がありました。第2期実施方策につきましては、昨年10月27日の教育委員会で策定され、既に公表されているものでございます。今説明にございましたとおり、新校の三つの基本方針を設けているところでございます。設置時期については、令和8年度に開校となっております。ただ今事務局から説明したこの方策について、何か御質問等ございますでしょうか。
渡辺委員 新校の基本方針の中で、一番目、機械、電気、建築、ロボット技術とあるんですけども、なんでロボット技術だけ特筆しているのかなと、その辺のところ

を伺いたいと思います。例えば機械ですね、機械は電気がなければ動きませんし、それから機械は今、もうソフトウェアで動いていますので、そういう意味では機械自体がロボットなのではないかと、業界ではそういうふうに考えています。そういう中で、ロボット技術だけ特筆して、ここに機械、電気、建築と同列でロボット技術と書いてあることについてお伺いしたいと思います。よろしくお願いします。

事務局 今現在ある大宮工業高校の学科、それから浦和工業高校にある学科を並べて、2校を統合していくわけですので、その両方の学科をうまく統合していくという中で出てきた大きな学科の枠組みでございます。確かに、ロボットというところだけが、より具体的と言いますか、他の分野的な表現が違う具体的なものとなっておりますが、この辺りも、今後の技術革新であるとか、現在の産業の在り方等の中から求められる学科ではないかということで、私たちとしては、そういった見方で表現しています。御指摘のとおり、片方が大きな分野、枠組みになっていて、ロボット技術に関してはやや具体的な記載になっておりますが、ただ、ロボットというところを新しい学びとして始めていきたいという思いもあり、このような表現にさせていただいております。

岡部委員長 渡辺委員、よろしいでしょうか。

渡辺委員 趣旨は分かりますけれども、どうなのかなという感じがします。また追々、お話しさせていただければと思います。

岡部委員長 ありがとうございます。その他、ございますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは次に進みます。新校基本計画検討委員会で検討された、大宮工業・浦和工業新校基本計画検討（案）について、まずは事務局から資料の説明をお願いします。

事務局 （大宮工業・浦和工業新校基本計画検討（案）のうち基本理念（目指す学校、育てたい生徒像）、基本姿勢について説明）

岡部委員長 事務局から説明がありましたとおり、資料3についてはボリュームが多いので、都度切りながら御質問等を受けたいと思います。まず、目指す学校から基本姿勢まで説明がありましたが、当該学校の校長でもある副委員長から、補足等がございますか。よろしいでしょうか。今の段階では、大宮工業高校案と浦和工業高校案が両論併記で記載されています。また、論点として、様々な視点で記載されています。◎は両校の共通点ということでございます。本日、委員の皆様から御意見を頂戴いたしまして、学校と調整しながら、次回、第2回の委員会までに一つの案にまとめていくというスケジュールになります。委員の皆様からは、こういった要素も入れた方が良くはないかとか、この観点は外せないとか、このフレーズは必要だとか様々な御意見を頂戴したいと思います。いかがでしょうか。

野澤委員 新校基本計画検討委員会というのが作られているわけですね。どういった人たちが委員になっているのか、参考に教えていただければと思います。

事務局 新校基本計画検討委員会は、大宮工業高校と浦和工業高校の教員、それから、教育局の各課の担当者、そういった者から成っています。学校の細かいところをしっかりと理解している人間が、学校のことをしっかりと組み立てていくということで、

そういったメンバーから成っているものでございます。

野澤委員 総勢はどのくらいなのでしょう。人数的には。

事務局 20人前後ですね。

野澤委員 ありがとうございます。

岡部委員長 その他、いかがでしょうか。

金子委員 浦和工業高校の学校評議員の金子です。工業高校は、どこの工業高校も地域に根差した産業の人材を輩出するというのが使命です。地域に根差した産業の学科が、どこの県でも設置されているのだらうと思います。さいたま市にある浦和工業高校と大宮工業高校は、さいたま市の方とも連携しながら生徒をインターンシップに行かせるなど、産業界又は会社とのつながりと言いますか、かなり強い結びつきがあったのだらうと思います。この要素は、継続していくべきだらうと思っています。ただ現状は、生徒をインターンシップに行かせるだけなんですかね。あと、地域の中学校とものづくり教室をやられているのかと思いますが、そことの連携なんですけれども、今度の新しい新学習指導要領等にも入っているかと思いますが、例えば、さいたま市には地域産業としてかなり優秀な中小の企業がありますので、中小の企業がやっているものづくり、これを生徒に説明し、産業を知ってもらう、あるいは会社を知ってもらう、どんなものづくりをやっているか知ってもらう。学校設定科目辺りになるのかと思いますが、設置して、現在ではオンライン等の授業もできますので、会社とオンラインでつなげて、そういうことを知ることは可能になるかと思いますが、そうすることによって、卒業後、いろいろな会社があるということを知ることが可能になるかと思いますが、その延長上に、インターンシップも可能になるのかと思います。更に、それぞれ優秀な会社があるわけですので、そこで行っているものづくり、例えばネジを作る会社であれば、ネジそのもののものづくりについて探究学習をする。そういうことも、その会社で培ったノウハウを生徒の学習に役立てることが可能ではないかと思いますが、また、ネジを作るのでしたら、そのプロセス、工程があると思います。製造に係る工程ですね。それらものづくりの製造過程の探究学習、学びの場としてもできるのだらうと思います。また、そこで使われている材料、素材、そこを探究していくということもできるのだらうと思います。そうした地域の企業に協力を得て、インターンシップのみならず、地域の会社の技術力を知る、日本の産業力を知るということも含め、更に、探究学習にも応用できるのではないかと考えております。2年生くらいにそうした学習ができれば、3年生の課題研究に結びついてくるのではないかと思います。基本姿勢の辺りになるかと思いますが、そうした学び、これまでやられてきたことを更により発展させ、進化させ、今後の産業に役立つ、学ぶ力、考える力、そのベースとなる知識とスキルを工業高校で教えていくというのが、新校の要素になると思っています。

岡部委員長 ありがとうございました。地域に根差した学校づくりという視点で、浦和工業高校も大宮工業高校もやっているインターンシップを是非継続していきたいというお話と、地域産業のものづくりを知るという視点で探究学習等を深めてい

くという話がありました。事務局からいかがですか。

事務局 ありがとうございます。私たちが舌足らずでうまく説明できなかったところを金子委員に全て語っていただいたと思います。最初にも触れさせていただいた現行の学習指導要領は、いろいろな方とつながっていく、連携していくことや探究を進めていくことが、大きな特徴となっております。令和4年度から新しい学習指導要領が本格実施されたと申し上げましたが、実は探究などの活動は、先んじて、平成の最後の辺りからスタートしています。ですので、各学校で既に、探究というのは根付いてきているんですけれども、金子委員がおっしゃったように、それを更に発展、進化させていくことは大事な視点かと考えております。御意見、ありがとうございます。

岡部委員長 ありがとうございます。その他、いかがでしょうか。

佐藤委員 魅力ある高校づくり課の佐藤でございます。自分の意見なんです、目指す学校のところで、論点に、小・中学生のものづくりへの興味関心を高めるとありますが、まさにこの部分、非常に重要だと思っています。なぜかというと、工業高校って何をやっているのだろうと、保護者としての感覚からすると、どういうことをやっているのだろうかといった部分が分からないところがあって、実際に、学校でかなり様々やられていることは知っているのですが、これを少しでも充実・強化させて、工業高校のことをよく知ってもらうということが重要なかなと思います。私が聞いた話だと、工業高校を卒業した生徒、その保護者からは、行ってみて良かった、こんなに良いんだという話をよく聞くので、まず、工業高校を知らないで行かない子もいるのかなという部分もありますので、今もやっていますが、これを充実、進化させるといったことが、重要な視点かと思っておりますので、是非、この小・中学生のものづくりへの興味関心を高めるといった視点は重要視していただければと思います。兵庫県では、小・高連携事業ということで、小さいうちから知っていただくという部分で結構いろいろやられているようなので、そういったところも参考にしていく必要があるのかなと考えました。以上です。

岡部委員長 ありがとうございます。ものづくりの興味関心を高めることが重要だという意見でございました。水島委員が大分頷いていたと思いますが、もし御意見等があれば是非お願いします。

水島委員 失礼ながら、申し上げさせていただきたいと思っております。浦和工業高校の水島でございます。工業高校に今、子供を通わせている保護者として、話を伺っておりました。実は息子が工業高校に入りたいということで、幼稚園くらいの頃から全ての車の名前を覚えているというような、それくらい車が好きな子でして、それでも工業高校に入りたいと聞かされたとき、実は保護者としては一瞬躊躇しました。というのは、工業高校というイメージを、私の世代で考えたときに、工業高校って怖いのではないかと、工業高校ってなんか不良みたいな人がいっぱいいて絡まれたらどうしようとか、そういうイメージが私の中でどうしてもありました。学校に入ってみたときに、実は中学校のときにほとんど提出物を自分で守ってやれなかった子なんです、高校に入った瞬間に、全ての課題を、予定日より早く出すという子

に変わったことを見て、工業高校ってなんてすごいだらうと感じました。実際に工業高校に通って、大宮工業高校、浦和工業高校の生徒たちがイオンですとかいろいろ公の場所に行って、自分たちが普段取り組んだ、学んだことを、形にしたものを出して、それに対して子供たちがキラキラした目で、生徒と一緒にいろいろ作ったものに体験をしていくのを見て、大宮工業高校はネットニュースにも出ておりましたが、そういった形のものを見たときに、とてもうれしく思いました。是非そういった形のものを、もっともっとたくさんの人に知っていただいて、工業高校イコールネガティブなイメージを払拭することによって、子供たちがもっといろいろな学びの場や研究の関心というものにつながっていくのではないかと考えています。地域の方々に御協力いただきながら、あるいは商業施設の御協力をいただきながら、そういった体験をすることによって、子供たちの自信につながり、また、その学びを通じて、今度は、将来自分で何か起業してみたい、スタートアップしてみたいという意欲につながると思います。論点にある両校共通の視点というのは非常に素晴らしいと感じました。是非そういった形で、子供たちが胸を張って未来へと向かえる、そういった学校を、目指す学校のバリューとして上げていただけたら良いと思いました。

岡部委員長 ありがとうございます。工業高校をもっとPRとか、生徒募集につながるお話もございましたので、後ほどその話は説明があるかと思えます。その他、いかがでしょうか。

渡辺委員 実際にもものづくりをしている側からですね、ちょっとこんなことがきちっとしてもらったらうれしいなということをお話し申し上げたいと思います。機械、電気、建築、ロボットという話がありましたけれども、基礎をですね、ものづくり全般的な基礎をみっちり学べるような、そういう学校にしてほしいですね。私はよく笑い話のようにしているのですが、これは実際にあった話です。機械加工をしている会社で、お前バイトどうだというふうに、その係長か課長か分かりませんが、上の人の方が言ったそうです。そうしたら、アルバイトはしていませんというふうに、機械科の卒業生が答えたそうです。こういうことが現状あるのかなど。こういうこともありますので、本当に工業、産業と言った方が良いのかもしれませんが、その成り立ち、基礎をきっちり学べるような、カリキュラムも含めてですけれども、学校をつくってあげたら、大変我々にとってもうれしく思います。また、先端産業、先端技術という言葉は耳障りがとても良いのですが、工業高校でこれを学ぶのは私は不可能だと思います。本当の意味の技術をきちっとやるのは、学校から出て、学校を卒業して大学なり会社なりに入ってからでも十分間に合いますので、基礎をきっちり学べるような学校にいただけたら良いなと思います。

岡部委員長 ありがとうございます。その辺は、事務局いかがでしょうか。

事務局 御意見ありがとうございます。最初のお二人の委員からあった、小学生たちとのつながりとか、中学生がどのように学校選びをしていくかという点から、小学校や中学校との連携が大事だということは、私たちとしても強く感じているところです。今、大宮工業高校も浦和工業高校もそうですが、そういった実際の取組があ

るかと思えます。彩の国ロボット工房などに代表されますが、子供たちが実際に学校に来て、ものづくりを体験する、やがてそういった子供たちが、工業高校に入ってみたいと思うようになると本当に良いと思えます。特に佐藤委員からもあった、小学生をターゲットとして考えるというのは、なかなか良いのだと、最近はそういった動きがすごく出てきているのだと思えます。また、今日は中学校の校長先生もいらっしやっていますが、中学校の先生方のほとんどが普通科の出身だと思うので、工業高校に限らないですが、産業教育というところをもっと知っていただければ有り難いと思っておりますので、そういった取組も、中・高連携とかそういった中で実現させていきたいと思っております。渡辺委員からあった、ものづくりの基礎ですね、これは現場の校長たちも同じように思っているはずで、そこをしっかりと押さえないと先には進めないでしょうし、そういったところを工業の教員たちは心を砕いているはずなのですが、ただその一方で、教員たちも新しい産業の流れであるとか、テクノロジーであるとか、そういったところにも、もっともっと触れていく必要もあるでしょうし、バランスを考えながら、というところが実際なのかなと思えます。ただ、とても大事な御指摘だと受け止めさせていただいております。先端産業というのはやはり、工業高校だけでは完結しないというのは、御指摘のとおりだと認識しておりますので、そこでの学びがきっかけとなって会社に入ってから、あるいはその先の上級の大学等に入ってから先端分野に関わっていく人材が育つと良いのかなと考えているところです。

岡部委員長 ありがとうございます。それでは、時間の関係で次に進みたいと思えます。次に教科指導について、事務局から説明をお願いします。

事務局 (大宮工業・浦和工業新校基本計画検討(案)のうち教科指導について説明)

岡部委員長 教科指導について、事務局から説明がありました。御意見、御質問等ございましたら、お願いします。

鈴木委員 泰平中の鈴木です。最初に出ていた、グローバル化ということで、世界でということを考えていくと、ではどういうことをしなければ世界でやっていけないのかと考えていくと、自分の能力が高いから世界に行けるのか、どんな分野で世界の水準に持っていくのか。いろいろ考えていくと、私は小さいとき、ラジコンとか結構好きな方で、当初は工業系に行くのも良いなと思っていましたが、実は私は音楽なんですね。つまり、将来を考えていくということであれば、まず、仲間とどういふふうにし合って、どういふふうにし合って仲間の良さを確認し合って、もちろん個人の技能があつてからこそ、仲間の、いわゆるそれが探究的な活動になるのでしょうか。あるいは、それが協働的な学習になるのでしょうか。そういう活動を通して、それらを相手に知ってもらうということでは、やはりプレゼンテーションの能力が必要になってくるだろうと。では、プレゼンをするに当たって、世界に羽ばたくとなると、日本語では通用しないということになるわけですね。そうすると、最低限、英語の技能は必要なんだろうと感じています。ということは、新校の教科指導というところでは、グローバル的な見地から言えば、最低限の工業的なものに関わる基礎知識というか、詳しくは分かりませんが、基礎的な言葉、世界に共

通する言葉であるとか、ものを動かしていく上での言葉ですとか、そういうことが必要なのかなと感じています。それから、そこを学ぶためには、やはりいろいろなところで活躍されている、最先端で活躍されている講師の先生方、これが毎回でないけれど、出前ではないですが、何回かそういう機会が設けられて、必ず選択制とかそういった形で学べるような形を取るのも、面白いのではないかと感じています。教科というどうしても工業的な分野が中心になってくるかと思いますが、やはり一般教養というのも十分必要になってくるものですから、必ず、ここで教科横断的な授業での学びというのは必要かと思っています。いろいろ言ってしまいましたが、基本的にはこちらの論点に書いてある内容は非常に重要なことであろうと感じました。また、一番最初に出ていた、地域のものづくりの拠点、そこからグローバルへという形も考えられるのだと思います。ですから、地域の工業であるとか、最先端の技術であるとか、そこから生まれているものも多々あると思いますので、そういうところからの講師の先生をお呼びするのもまた一つの、なかなか、企業秘密もあるかもしれませんが、近くに、さいたま市の「未来（みら）くるマップ」という職場体験学習なんですけれども、職場体験に、それぞれの工業団地に子供が行ってみたいところこれは1千万円もする機械だとか、これを使ってといったような、こういうものを作っているのかとびっくりしまして、更に、大宮工業高校の卒業生がそこで働いていたということもありました。地域に根付いて、しっかりと頑張っている方から学ぶのも、一つの重要なポイントではないかと思っています。すいません、あっち行ったりこっち行ったりで、ちゃんとした話になっているか分からないですが、是非ですね、国際理解、国際を絡めるのであれば、よりステップを踏んでいくのが重要だと感じました。

岡部委員長 ありがとうございます。グローバル化に関して、また、地域の視点から、論点の記載に通じるような御指摘がございました。地域から学ぶという御指摘もございましたが、事務局からいかがでしょうか。

事務局 御意見ありがとうございます。私たちも、論点に示させていただいているわけですので、非常に大切な観点だと考えております。これを具体化して、最終的には二つを一つにまとめていくことになりませんが、そこに更に肉付けをしていきますので、うまくそういったフレーズを取り入れていきたいと思っております。

岡部委員長 その他、いかがでしょうか。

金子委員 今、教科指導のところでのお話ということで、私は今、大学に勤めていますが、大学の方の工業は、Society5.0というところの教育をどうしていくかということが話題になっています。1.0が狩猟生活、2.0が農業社会、3.0が工業社会ということです。この3.0のところ、工業高校が基礎として、中学校から上がってきた高校生に基礎基本を教えながら、その先の、この間までは4.0の情報社会だったのですが、教科「情報」の辺りではこの情報の取扱いについて、これから必要になっていきますので、その中の情報教育というところも、教科の中に入ってきているのだらうと思います。これから高校生が卒業して社会で働きながら迎える社会というのは、5.0という、バーチャル、仮想空間の世界ですね、そういったものを使い

ながら生活していくような社会に触れざるを得ないということになります。やはり工業高校としても、その部分にどう触れさせていくのか。先端技術という部分は4.5ぐらいなのかなと思うのですが、きちっとですね、渡辺委員が話されたように、中学校から上がってきた生徒ですので、工業の基幹となる電気、機械、建築、更には情報技術をきちっと抑えながら、しかしながら現在は4.0の情報社会の中に生徒は生活しているわけですので、情報社会の中で実際に仕事をしておりますし、現在は4.5とも言われておりますので、そうした情報にも触れさせるということも、やはり工業高校で学ぶ生徒たちに必要なのではないかと考えております。この情報教育については、普通科の教科「情報」でも学びの中に入っておりますし、これをどのように取り扱ってこの新校でやっていくのか。工業の科目の中では、情報技術基礎という科目がありますが、それ以外にも、このところに書いてあるデータサイエンスなどそういったところにどうやって触れさせていくのか。この辺も少し知っておく必要があるし、そういう社会をこれから迎えるんだということを、きちっと工業の基本の学科の内容を学びながら、現在の情報社会、あるいはこれから迎える社会に対して、どのように新校のカリキュラムを教科の方で拾っていくのか。この辺の兼ね合いというのが難しいとは思いますが、そういうものを入れながら、新校の目玉にもなると思っておりますので、御検討いただきたいし、知恵を絞らざるを得ないかなと考えております。

岡部委員長 ありがとうございます。どう先端技術につなげていくかということで、いろいろ御指摘がございましたが、その他、いかがでしょうか。

渡辺委員 今の金子先生の話と少しダブるような感じがしますが、今、学校で、不登校の生徒が増えていると聞いています。それはいったいなぜなのだろうかと考えると、どうも、行ってもつまらないという本当に単純な話なのだろうと考えています。そういう中で、私は様々な中学校の出前授業にも行ったことがありますのでいろいろ話を聞くと、それぞれ工業高校を目指す子供たちは結構、個性の強い子が多いと思っています。そういう中で、社会で何が一番大事か、また、不登校を防ぐために何が一番大事かなと考えていくと、自分の個性にあった得意分野を伸ばすことが一番大事なのだろうと。そうすることによって、学業に対しても興味が出てくるだろうし、社会に出てからの目標みたいなものもある程度定められるのではないかと考えています。また、児玉新校のホームページを見させていただきましたが、選択科目が相当多いというふうに書いてありました。うろ覚えなのですが、児玉は50くらい選択科目があったと記憶しています。そういうことも含めて、浦和工業高校と大宮工業高校の統合に際して、得意分野を伸ばせるようにどうするかということになると、選択制をかなり強めてもらって、得意分野を伸ばす、得意分野が伸びていけばそれは本人の武器になりますので、大学に行くにしろ社会に出るにしろ、自分たちに自信が付くということが一番大事なことかと思っておりますので、できれば選択制を広く持ってもらえるような高校になったら良いなと思っております。

岡部委員長 ありがとうございます。今の御意見を踏まえて、事務局から願います。

事務局 金子委員からいただいた、Society5.0 に向かう中でどんな力を付けていくかということは、私たち本当に大きな視点と捉えて、良い学校づくりに向けて検討を進めていきたいと思っております。今回の資料は箇条書き程度になっていて、それぞれの学校からもっといろいろな情報をいただいているところです。ですから、そういったものをいろいろと拾い上げていきたいと思っております。渡辺委員からお話があった、生徒がつまらないというのであれば不登校が増えていってしまうし、得意分野を伸ばすために選択科目を、ということで、これはそれぞれの学校からいろいろなアイデアが出てきています。例えば、総合選択というやり方で幅広なところから選択させるという授業のやり方もありますし、実際にそういったものを取り組んでいる県立高校は県内にあるんですね。ですから、いろいろな展開を考えながら、幅広に、いろいろな興味関心、あるいは得意不得意もあるでしょうから、そういったところで幅を広げていきたいと考えております。御意見ありがとうございます。

岡部委員長 その他、よろしいでしょうか。それでは次に進みます。次は4ページになりますが、生徒指導の分野でございます。事務局から説明をお願いします。

事務局 (大宮工業・浦和工業新校基本計画検討(案)のうち生徒指導について説明)

岡部委員長 ただ今説明があった生徒指導について、御意見等がございましたらお願いします。

鈴木委員 特に変わった意見ではないのですが、本校の校訓の中に、「礼を正し 場を浄め 時を守る」という、もう言い尽くされた三つの言葉があります。全く新しい新校をつくるに当たって、言葉は変われど、重要な内容だと感じています。当然、挨拶、服装は大事だと思います。社会に出れば、いろいろな方と関わる、またお客様と関わる、お客様と関わる、そういった上で重要だと思います。そして服装。服装が正されていなければ事故が起きる。そういう状況も起きるだろうなと感じていますし、身だしなみが悪ければ相手から悪いイメージを持たれてしまう。場を浄めということでは、先ほどお話をされた5Sの話だと思います。時を守るというのは、ここに特に出ていないのですが、これは当然のことだからここでは出ていないと思っておりますが、やはり、社会人としての必須条件、今はスマホというツールがあって、あるいはLINEというツールがあって、ごめん5分遅れるとか、そういうのが自由自在にできてしまう、そんな時代になっています。そんなことで信頼関係というのは、ちゃんと作れるものではないだろうと思っておりますので、そういうことも重要な視点かなと思います。また、今の社会問題になっている、心の問題ですね、この心の問題をしっかりサポートする体制というのは、是非作っていただけたらと思っております。教育相談への言及とこちらにも出ておりますが、いろいろなことで悩みを抱えている学生、中学生もそうですけれども、その学生たちにしっかり寄り添って、例えばスクールカウンセラーが必ず付いているとか、相談する部署があるとか、全ての教員はしっかりと窓を広げて生徒の話を聞くことができるなど、そういう必要なことが出てくるのではないかと思います。

岡部委員長 ありがとうございます。挨拶、服装、そして時を守る、あるいは相談

体制の話もありました。先ほど、生徒指導提要が12年ぶりに改訂されたとありましたが、かいつまんで申し上げますと、組織的な体制ですね、組織的に又は体系的に取り組むように、チーム学校として生徒指導に当たるという観点です。また、多様な背景を持つ生徒が増えたという背景から、こういった生徒にもきめ細かく指導していきましょうという話だったり、また、今までは対処療法的に目の前の課題だけの解決で済んでいた指導を、もう少し生徒の成長だとか発達に応じて指導をしていきましょうという観点で、生徒指導提要が改訂されています。今の御意見について事務局からありますか。

事務局 御意見、ありがとうございました。

岡部委員長 その他、いかがでしょうか。

水島委員 生徒指導の部分に対してこれから組み立てていく上で一点、保護者又はPTA会長という立場でお願いをしたいことがございます。今、社会的にも、例えばブラック校則みたいなことが言われておまして、社会と子供たちが考える正しい身だしなみとは何かとか、どのような見た目になっているのが良いかいうところに、少し乖離が発生しているようなこともあり、社会的にもブラック校則と言われるようなことがあるかと思えます。学校の中でも、校則をどうするかとなったときに、私たち大人が聞いても疑問に思ってしまうことがあります。例えば、ツーブロックにするかしないか問題。社会ではツーブロックは別にいいんじゃないとなっても、学校では、学生らしくないからツーブロックはだめ、みたいな話があったりします。私たち親としたり、別にそんなにおかしなことではないんじゃないというようなこともあり、また、先生によっても判断が違うということがあり、子供たちが迷ってしまうというケースも多々ございます。例えば各学校、生徒たちに対して、スマートフォンは持ってはいけないよ、あるいは持っても良いけれど電源は切ってくださいねというような話があって、ある生徒は、スマートフォンをポケットにしまおうとしたところを見つかっただけで取り上げられた、ある生徒は、スマートフォンをいじりながら正門まで来たけれども何も咎められなかった、といったようなこともあり、結局生徒たちも迷ってしまうことがあります。また、何かの相談をしようと思って誰に相談したら良いのか分からない、どの先生に相談したら良いのか分からない、あるいは何か相談しにいったら先生がその場で怒鳴りはじめて、クラスの中が混乱してしまった、そういった話などもいくつか、生徒から、PTA会長さん聞いてよということでも耳にしたケース、目にしたケースもございました。工業機械が新しく入ることも含めて、一定のボーダーラインみたいなものを設けていただいて、可能な限り先生たちの判断が一定のものになるようにしていただけたら、その乖離というのが少し小さくできるのかなと思います。その点を踏まえて、子供たちが社会に出たときにどういった身だしなみ、挨拶はできるのか、自分からどのように仕事を取っていくのか覚えていくのか学んでいくのか、そういった形の判断力を、高校3年間の中で培って社会に出ることによって、基礎という部分を、先ほど渡辺委員からもありましたけれども、そういった基礎と並んで、社会の基礎という部分を、しっかりと学校という組織の中で学んでいっていただけるようにし

てほしいと考えております。

岡部委員長 ありがとうございます。校則と社会の乖離という点、それから相談体制という観点でのお話でございました。この辺り、事務局からいかがでしょうか。

事務局 まさに今、水島委員がおっしゃっていただいたことが、世の中で大きな課題としてあるということで、国の方で12年ぶりの改訂をしたこの生徒指導提要というのは、全ての教職員がしっかりと、そういった方向性を読み込んで、これ以降の学校の生徒指導を、よりあるべき形に近づけていこうと示される模範となるものなので、新校にかかわらず全ての学校が、例えば、校則に関して言えば、もっと開かれた校則にするとか、子供たちの意見を取り込んだり保護者の意見も取り込みながらルールを作っていくとか、いろいろな形、新しい動きが出てくるだろうと期待しています。その中で、当然、私たちが今考えている新校の中にも、より良い生徒指導というのが、その在り方がしっかりと根付くように、基本計画の中に位置付けていきたいと考えております。

岡部委員長 その他、よろしいでしょうか。大変熱心に御議論いただいております、ありがとうございます。時間の関係で次に移りたいと思います。次は進路指導でございます。事務局から説明をお願いします。

事務局 (大宮工業・浦和工業新校基本計画検討(案)のうち進路指導について説明)

岡部委員長 ただ今事務局から説明がありました進路指導について、御意見、御質問等がございましたらお願いします。ここは出口のところでもございますが、トリプル100といったように、案では非常に高い目標も立てております。

渡辺委員 進路指導は非常に難しいということを私も十二分に理解しているんですけども、特に、子供たちに夢を持たせるようなという、漠然としていて申し訳ないですが、そういう進路指導はできないのかなと思っています。よく学校回りをすると、就職するための面接の指導を進路指導と言われている学校もあるんですよ。少なくとも、そんなことが進路指導であってはならないと私は思います。なかなかうまく、具体的にこうしてというのなかなか思いつかないのですが、やはり、生徒たちに夢を、若しくは将来を考えさせるような進路指導はできないのだろうかということで、特に新しい学校の場合は、そんなことを是非論点の中に入れていただいて、具体的にこんなことをやろうではないかというような議論をしていただければと思います。

岡部委員長 ありがとうございます。夢を持たせるような進路指導をとということでした。大変重要な視点だと思えます。

金子委員 高校生というと、なかなか先がまだ見えないのが現実だろうと思えます。

1年後の自分の姿がどうなっているのかなどなかなか見えづらいところで、正直、生徒によっては、今日が楽しければそれでいいということで余り考えていないところもあるのかと思います。ここでの私の話は、先ほども出てきたのですが、選択科目を増やして、自分の将来の進路に結び付けていくような選択ができないか、その選択をするというのが、その地点での進路選択、自己の選択になっていくのだろうと思えます。その科目を選択することによって、将来の自分のぼやっとした進路が

見えてくる。そのためには、生徒に選ばせる、判断させる、そして自分で行動して決定させる。それが具体的に高校の中ではどんな形でできるかということ、より選択科目を増やし、それを選択していきながら将来に結び付けていくような選択ができれば良いのかと思います。カリキュラムの中でも、出口の問題ではなくて、その場面での、あるいは次の学年が上がる場面での選択を自分で考えながら決定していくということが、高校の中での進路指導、キャリア教育につながっていくのだろうと思います。是非とも、科目を多く選択できるような総合選択制のカリキュラムが組めれば、進路指導の一翼を担うのかなと思います。

岡部委員長 ありがとうございます。選択科目を多く作って、キャリアをデザインする力を培うというお話でした。大宮工業高校案にも、その点盛り込まれておりますし、論点にも入っております。事務局からいかがですか。

事務局 選択科目を作っていくということは、ガイダンスをしっかりとやらないと、生徒たちが易きに流れるというのは学校現場でよく起こることです。先ほど御指摘いただいたように、選ぶという、自己決定するというのを、一つ一つ重ねていくことが大事だと思っております。どうしても、学校のいろいろな場面においては、渡辺委員が御指摘されたように、面接をうまく乗り越えて試験をしっかりとパスすればといった指導にいきがちなんですけれども、そうではなくて、キャリアパスを見通した、先々を考えさせるという指導が大事なのだろうと思います。御意見をうまく計画の中に盛り込んでまいります。

岡部委員長 その他、ありますでしょうか。

鈴木委員 目指す学校のところで、地域のものづくり拠点という論点が出ておりました。そして、先ほど、総合選択制による教科指導というところで、そこから、地域とのつながりということを考えながら、中学校では、「未来（みら）くるワーク」と称して、近隣の事業所等をお願いして、いわゆる職場体験をさせていただきました。高校生は、実際にそういった提携している事業所等に行って、一歩リードした、高校生なりの、選択制から就職するまでの間のところを埋める形のことを何かできれば良いのではないかと感じました。実現できるかどうかは分かりません。そんなこともできるのではないかと感じました。そうすると、就職するに当たっても間違いが起きることもないのではないかと思います。

事務局 生徒の就職、進学もそうですけれども、ミスマッチが起こらないようにしていくためには、いろいろな経験とともに、事前に積ませるいろいろな機会を通じて、世の名の動き、企業はどういうものなのかというのを学んでもらうことが必要なんだと思っております。是非そういった具体の策も、アイデアをお寄せいただいて、こちらの方に盛り込んでいきたいと思っております。それぞれの学校からも細かいアイデア等をいただいているところなんですけれども、計画の中に入れていきたいと思っております。

岡部委員長 その他よろしいでしょうか。それでは、次の生徒募集に移りたいと思います。事務局から説明をお願いします。

事務局 （大宮工業・浦和工業新校基本計画検討（案）のうち生徒募集について説明）

岡部委員長 生徒募集について事務局から説明がありました、いかがでしょうか。
御質問、御意見等があればお願いいたします。

渡辺委員 少しまだ早いのかもかもしれませんが、募集人員というのは何人くらいになるのでしょうか。新校として、先ほど、機械、電気、建築、ロボットというような話がありましたけれども、だいたいどのくらいの人数をどういう形で募集するのかを教えてくださいたいと思います。

岡部委員長 事務局、お願いします。

事務局 基本計画の中には必ずそれが位置付けられるのですが、次回以降に具体のものを出させていただいて、御意見を頂戴する予定でございます。今日の段階ではまだということです。

岡部委員長 よろしいでしょうか。その他、生徒募集の関係でいかがでしょうか。

渡辺委員 ではその他ということで。新校の設置はこちらの大宮工業高校の場所ということでしょうか。そうすると、ここは非常に環境も良いし広いですね。こちらで、何か特別にこういうことができるのではないかとというようなことがあれば、次回以降に何か作っていただければ有り難いと思います。

岡部委員長 こちらの環境の良いところをどう生かしていくかということでしょうか。

渡辺委員 そうです。これだけ広い敷地があるし、校舎もかなり立派だと思います。例えば建築科があるのだとしたら、家を建ててもいいのではないかとか、学校教育の中で。そのようなことができたなら本当にうれしいなと思いますし、機械科、電気科であれば、自動運転などいろいろ取りざたされているので、例えば車を作ってみようとか電気自動車を動かしてみようとか。そういうことがここだったら可能かなと。私も今日来てぐるっと回ってみて、なんと広い高校なのかと思ったもので。そんなことができたなら、それこそ魅力ある高校になるのではないかと思います。次回以降の論点の中に入れていただけたらと思います。そういう意味でございます。

事務局 ありがとうございます。新しい学校ですので、いろいろなことを組み入れたところはありますが、基本は既存の施設を活用することをベースに、必要に応じて手を入れていくことになるのかもかもしれませんが、何分、予算面のところについては、今明確に申し上げられないので、次回以降、こういったことができるのではないかとか学びのいろいろな工夫とか、アイデアをいただければ有り難いと思っております。

岡部委員長 冒頭にもございましたとおり、興味関心を高める、魅力を発信するという意味でも、この広報活動というか、いろいろパブリシティを活用したりSNSを活用したりということは、非常に大事だと考えています。よろしいでしょうか。それでは、最後ですが、その他について。事務局から説明をお願いします。

事務局 (大宮工業・浦和工業新校基本計画検討(案)のうちその他について説明)

岡部委員長 大宮工業高校の案として2点記載がありますが、これに関していかがでしょうか。御質問、御意見等があればお願いします。前に出てきたマイスターハイスクール事業の成果ですとか、大学との連携の強化ですとかそういったところが示

されております。よろしいでしょうか。それでは、大変貴重な御意見をいただきました。以上で協議を終了いたします。